

見守りシステムの応用展開に関する研究

[背景・目的]

富士工業技術支援センターでは新成長戦略研究「ファルマバレープロジェクトを推進する医療・介護用機器の開発」(平成25～27年度)において、無拘束で要介護者の状態を検知できる見守りシステムを開発しました。開発したシステムは、マットレス下に設置できる呼吸脈拍センサ及び離床センサと、それらの信号を制御・処理するコントロール装置及びホストコンピュータ装置から成っています。離床センサは医療機器の認可が不要なため、平成27年度末に先行して販売を開始しました。

ここでは、開発したシステムについて介護現場への普及の推進と応用展開の拡大を目的として、共同研究企業と協力して取り組んだ成果を紹介します。

[これまでに得られた成果]

- 呼吸脈拍センサについては医療機器と判断されたため、医療機器クラス I (14B2X00002000034) を取得しました。それを受けて、無拘束で要介護者の状態(呼吸、脈拍、離床、在床、活動量等)を検知できる見守りシステムを、平成28年12月より市販を開始しました(図)。
- 他の見守りセンサ機器と組み合わせたいとの要望を基に、見守りシステムの改良を行っています。

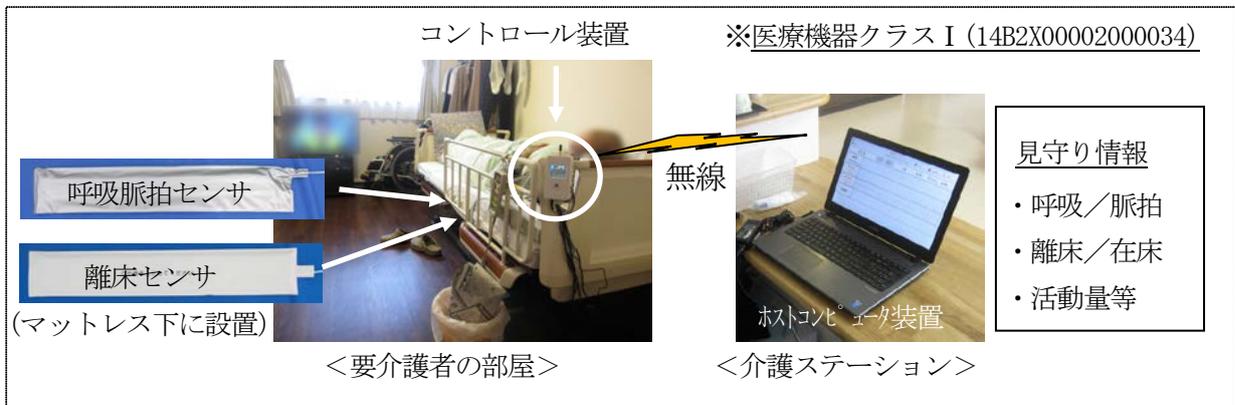


図 製品化した見守りシステム概要

[期待される効果・技術移転の計画]

- 呼吸脈拍センサを用いた見守りシステムは、介護施設等に向けて販売を開始し、これまでに10台以上が導入されました。平成27年度末に販売を開始した離床センサは、病院や介護施設等に20台以上導入されています。これらにより、介護者の負担軽減と要介護者の安心・安全に貢献します。
- 開発した成果は、介護医療関連の全国の展示会等に5件以上出品し、情報発信や応用展開を働きかけています。
- 開発した見守りセンサ技術は、介護分野だけでなく、様々な分野の「見守り」に応用可能であるため、応用展開を推進していきます。